

令和5年度地域イノベーション創出に向けた実践的教育研究推進プログラム(地域連携エクステンション活動)採択一覧

No.	採択区分	部局名	代表者氏名	事業名	事業概要
1	地域連携エクステンション活動(講座型)	地域学部	木野彩子	「静」鳥取公演	2023年3月にアメリカメリーランド州で公演を行った「静」は、2010年のギャラリーパフォーマンスからリクリエーションを行なっている木野の代表作の一つである。2月に現地への作品説明のための試演会を開催したが、上演はできなかったため、改めて鳥取市内で公演を行うことを目指す。
2	地域連携エクステンション活動(講座型)	工学部	木村 周平	電気・情報に関する体験講座の実施(プログラミング体験教室 スマホアプリを作ろうの会)	若者の科学(工学)離れが言われているが、子供のなりたい職業に関するアンケートでは「学者・博士」が上位にある等、幼少時の科学に対する憧れは強い。その為、幼少期から継続的に科学に触れる機会を提供する事で、科学を身近なものとして認識して貰う事を目的とする。また、実施者らは主に小中高生を対象にした情報に関するプログラミング体験講座として平成22年より同教室を実施してきている(これまでに延べ600名以上の小中高生が参加している)。
3	地域連携エクステンション活動(講座型)	農学部	菅森義晃	山陰海岸ジオパークを通じた地質学のアウトリーチ	2017年度から菅森は山陰海岸ジオパークの地質に関して鳥取県との共同研究等を実施している。研究成果を地元住民に還元するとともにガイド団体等によるツーリズム活動への研究成果の利用、さらには地質学の魅力を伝え、参加者に地質学に興味を持ってもらうこととジオパークの活動への参加を促すことが本事業の目的である。2023年度は2022年度の鳥取県からの受託研究の成果を中心にこれまでの研究成果の一部を「みんなでおしゃべり6」で紹介し、新たな企画「夏休み岩石鑑定団(仮)」を通して地質学の普及に努める。 【みんなでおしゃべり6】 山陰海岸ジオパークにおける鳥取大学の名物イベントへと成長し、2021年度中に実施された世界ジオパーク再認定へ向けた日本ジオパーク委員会の事前調査でも高く評価され、継続的な実施が強く望まれている。 【夏休み岩石鑑定団(仮)】 鳥取県立山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館の協力の下、「顕微鏡で見る石の世界」を2020年度から実施している。今年度は、8/19にCDLにて小中高生を念頭に、夏休みに採集した岩石の同定やその成り立ちを、申請者をはじめとする鳥取県東部の専門家(鳥取県立博物館職員2名、海と大地の自然館職員2名)が教授することで、岩石への興味付けを行いたい。また、鳥取県や山陰海岸ジオパーク推進協議会専門員の協力の下、山陰海岸ジオパーク版「世界に1つだけの岩石標本製作」を同日に広報センターで実施する計画である。このイベントを通して岩石から地球の成り立ちを一般の方々を知ってもらい、鳥取大学の地質学分野の研究や「地球の営み」の理解につなげていく。

No.	採択区分	部局名	代表者氏名	事業名	事業概要
4	地域連携エクステンション活動(講座型)	教育支援・国際交流推進機構	御館 久里恵	国際理解教室「世界を知ろう」	<p>本事業は、本学の外国人留学生在が鳥取県内(及び隣接県)の地域や学校に出向き、地域住民や児童・生徒と共同作業や交流を行うことで、相互理解と多文化共生意識を醸成することを目的として実施するものである。派遣留学生から各自の文化等を、プレゼンテーション、クイズ、読み聞かせ、ことばの教室、伝統的な遊び等を通して地域住民や子どもたちに伝える。また、留学生在が地域の伝統行事に参加したり、地域住民や子どもたちから文化的資源や学習成果を紹介してもらったりすることを通して、相互理解を図る。地域の伝統行事については地元住民から指導を受け、留学生的の文化紹介については国際交流センター公認の学生団体「G-frenz」のメンバーがファシリテーションを行う。</p> <p>本事業は平成24年度から小・中・高等学校を対象に継続して実施していたものであるが、令和5年度は、その対象を自治会単位の地域にも広げるものである。</p>
5	地域連携エクステンション活動(実践型)	地域学部	鈴木 慎一郎	自然環境を題材とした「子どもの音楽イベント」の企画と実践	<p>日本には四季があるにもかかわらず、生活環境の現代化に伴い、自然を感じにくくなっている。また、様々な電子機器の普及に伴い、生の音楽に触れる機会が減っている。幼児期・児童期の体験は、豊かな感性を育成する上でも重要である。</p> <p>本事業の目的は、幼児・児童を対象とする自然環境を題材とした唱歌、童謡を取り上げた「子どもの音楽イベント」の企画と実践を学生参画により実施し、その有効性を検証し、実態を明らかにすることである。</p> <p>令和4(2022)年度は「森」をテーマとし、唱歌、童謡を通して自然環境への関心も高まった。しかしながら、対面ではできず、DVD作成となった。令和5(2023)年度では、対面で行い、「花」をテーマとし、「花」を題材とした唱歌、童謡を取り上げていきたい。</p>
6	地域連携エクステンション活動(実践型)	工学部	小野 勇一	小学生を対象とした「鳥大ものづくり教室」の開催	<p>本事業は小学生とその保護者を対象とする親子参加型の実践的なものづくり教室で、これまでに25回以上の開催実績があります。参加者は工学部ものづくり教育実践センター(ICEE)の設備やノウハウを活用し、日常では体験できない本格的なものづくりを体験することができます。</p> <p>また、最近数年でノウハウを蓄積した、オンラインでのものづくり体験の実施にも取り組み、より広範囲の参加者への機会提供を行います。</p>

No.	採択区分	部局名	代表者氏名	事業名	事業概要
7	地域連携エクステンション活動(実践型)	工学部	塩崎 一郎	今日から学ぶ高校地学2023	<p>【経緯・背景】本事業は鳥取大学全学共通科目・教養科目・基幹科目「地学及び地学実験演習」を教科集団地学の一員として職責を果たす中で企画・草稿された。近年、大規模気候変動や自然災害の発生による「地学」が扱う現象への国民の関心は高まっているが、数%未満という高校における地学履修率の現実がある。これらを背景として、「科学リテラシーの向上」、「理系離れ」時代に対するひとつの試みとして、また、鳥取県が進めるジオパーク普及・啓蒙活動(山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館(以降SKGM と略))ならびに鳥取市さじアストロパーク(以降TSAP と略)の施設外連携に関する提案として本事業を企画した。</p> <p>【目的】本事業では、本学湖山キャンパスと山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館(SKGM)において、観察会や講演会、学習会を通して、自然現象を「その背景となる法則を含め」提供することを目的とする。教育・研究成果の地域社会に還元と地域住民の生涯学習や特に、今年度の発展的課題として防災・減災意識向上の機会を提供するために、天文ならびに固体地球の分野別テーマを選び、野外観察会や学習会を中心とした事業を行う。</p>
8	地域連携エクステンション活動(実践型)	農学部	野波 和好	第17回 FSCあぐりスクール	<p>FSCあぐりスクールは児童とその保護者が一緒になり、作物を育て、自分たちで世話をした農作物を食べることで食について知る機会の提供を目的としています。野菜や米の栽培管理だけでなくモチや蕎麦などの加工にも挑戦します。参加者への指導助言は農学部FSCの教員及び技術職員が行います。また参加者の皆さんにはそれぞれ可能な範囲で草取りや野菜収穫など日頃の管理をお願いし日々の生育の様子を観察して頂きます。</p> <p>昨年度までは、コロナ感染拡大防止のため、制限を付けての開催(餅つき、その場での試食等の中止)でしたが、今年度からは感染拡大防止に努めつつ、これらの制限を徐々に解除し開催する予定です。</p>
9	地域連携エクステンション活動(実践型)	農学部	辻 渉	令和5年度 トウモロコシを通じた「親と子」の食育プログラム	<p>食と農の大切さを理解する食育の場を提供することを目的として、児童とその保護者を対象に次の活動を実施する。トウモロコシの収穫を行って、その栽培管理や特徴を学ぶ。その後、食体験を行い調査・実験を行う。直にトウモロコシに触れ、体験することで楽しみながら深い学びにつながるように活動を実施する。</p>
10	地域連携エクステンション活動(実践型)	乾燥地研究センター	山中典和	乾燥地研究センター一般公開	<p>本事業は、地域住民の方々を対象に、乾燥地の自然や文化および乾燥地が関係する諸問題を紹介し、乾燥地研究の重要性を理解してもらうことを目的としている。また、乾燥地研究センターの研究・活動内容の紹介及び研究施設等の見学を行い、乾燥地研究センターについてより深く一般の方々に理解していただくことを目指している。</p>

No.	採択区分	部局名	代表者氏名	事業名	事業概要
11	地域連携エクステンション活動(実践型)	技術部	三谷 秀明	米子市および日南町と連携した科学実験教室の開講	<p>本事業は、米子市共催事業、日南町連携事業としてそれぞれ科学実験教室を開催している。参加した子供たちが楽しく学び理科に興味を持つことで、将来、本学を含め理系の道へと進み、得られた知識を地域の活性化に役立てる人材となることを目的としている。</p> <p>米子市小学校教育研究会理科部共催事業は平成30年度より医学部と合同で開催している。令和4年度も開催の予定で準備を進めてきたが、新型コロナウイルス感染により事業が中止となった。令和5年度はコロナ感染対策の制限の緩和により例年とおりの開催を予定している。毎年、米子市内全小学校の5, 6年生を対象として、夏休み期間の1日に限定し開催しており、350名程の児童が参加する中で、本学が開講する医学・生命科学講座には毎年100名以上の申し込みがある非常に人気の高い科学講座である。</p> <p>日南町連携事業も、平成19年度より開講している人気の高い実験教室であり、毎年10月後半の土日に開催されるにちなんふる里まつりに連携して開催している。現在は技術部が主体となり、医学部教員、農学部教員、研究推進機構教員、学生も参加する事業となり、子供から大人まで楽しめる実験教室となっている。令和4年度は、日南町職員の協力もあり過去最高の来場者数となった。本学として初めて町内各施設へのオリジナルのポスター掲示を取り入れ、一層の周知を図ったが、アンケートの結果から、町外からの来場者への周知の低さが課題となった。この課題が確認できたことで、令和5度の周知方法の具体的な改善の道が開けた。</p> <p>また、来場された同様の取り組みをしている一般住民の方から協力した実施の提案もあり、さらなる地域連携事業としての発展が期待できる。</p>
12	地域連携エクステンション活動(実践型)	技術部	安藤敬子	鳥取大学発「出前おもしろ実験室」プロジェクト ～理科好きな子どもたちを育てるために～	<p>「出前おもしろ実験室」は、子どもたちに理科・科学への興味・関心を深めてもらうことを目的として行う出張形式の体験型科学実験教室である。平成18年度から毎年実施しており、口コミによる依頼やリピーターが多いことから効果や期待、満足度が高いことが窺える。また、年々学校の授業や教員研修、公共施設など教育現場からの依頼が増えており、教育効果への期待を感じられる。</p>

No.	採択区分	部局名	代表者氏名	事業名	事業概要
13	地域連携エクステンション活動(実践型)	技術部	馬場恵美子	電子工作教室	<p>技術部では、子どもたちの工学や技術に対する興味・関心を高めることを目的として、平成20年度から小中学生を対象とした工作教室・技術教室を開催している。毎回技術テーマを設けてオリジナル教材を開発し、科学の応用である技術を楽しく学べるよう工夫している。</p> <p>本教室は参加人数に定員を設けて実施しているが、応募人数は新型コロナ流行以前から毎年定員を超えており、抽選で参加者を決定していた。コロナ禍のためオンライン形式や少人数の対面形式で実施した近年においても、その状況に変化は見られなかった。そのため、令和5年度はより多くの応募者にもものづくり体験の機会を提供できるよう、開催方法の見直しを図る。</p> <p>電子回路に精通した職員を中心に、それぞれの専門知識や研究における技術支援のスキルを活用して、電子工作未経験の小中学生でも製作可能な電子機器を開発する。また、本事業は本学工学部に在籍する学生をアルバイトとして雇用する。技術職員が日頃行っている教育・研究支援での学生指導や、学生が授業で学んだ専門知識・技能を活用して、子どもたちへの製作指導にあたる。</p>